第2回「心に残る給食の思い出」作文コンクール
日本給食サービス協会会長賞受賞

高岡小学校　4年
有馬（ありま）　鈴花（りんか）　さん

左から中村学校教育課長、谷口教育長、有馬さん、藤原校長（高岡小）

第２回「心に残る給食の思い出」作文コンクールにおいて、全国から集まった 1611 点の作文の中から有馬鈴花さんが日本給食サービス協会会長賞を受賞しました。
（原文は下記のとおりです）

『わたしのけいはん』

高岡小学校　四年　有馬　鈴花

わたしはけいはんが大好きです。それは、すぐに食べられるし、具の中でとり肉をさいたのときんしたまごが好きだからです。

初めて食べたときからけいはんは大好きでしたが、けいはんのことについてくわしくしったのは最近です。わたしは給食委員会で毎日のこん立をみんなに伝える仕事をしています。こん立を見ていてとり肉の「鶏」とごはんの「飯」という漢字になっていることに気がつきました。具にもとり肉が使われているし、だしもとりがらでとってあると書いてありました。とり肉がたくさん使われているのでこんな名前になったのだと思いました。

また、「けいはん」は、あまみ大島の代表的なきょう土料理だそうです。あまみ大島は海にかこまれているので魚料理が有名なのかと思っていたら、とり肉料理が有名なので意外でした。

初めてけいはんを食べたのは、わたしが一年生の時です。給食に出てきました。ちらしずしかなと思っていましたが、となりのスープにはぜんぜん具が入っていません。「これ何スープだろう、飲むのかなぁ。」と不思議に思いました。

「どうしてスープに具が入っていないんですか。」

と先生にたずねると、

「そのスープは飲むんじゃないの。ごはんにかけて食べるんですよ。」

と教えてくださいました。「学校の給食でしるかけごはんが出るなんて信じられない。食べ方がちがうんじゃないの。」と思いながら食べ始めました。先生が、

「お茶づけみたいでしょう。」

とおっしゃいましたが、わたしは、まるでひやしちゅうかのごはんバージョンのようだなぁと思いました。いつもは食べるのがおそくて最後までのこって食べていましたが、けいはんの時はおいしくて、いつの間にか全部食べ終わっていました。この日から、わたしはけいはんが好きになったのです。

そして、今年四月の給食で、初めてけいはんが出ました。わたしが通っている学校は全校児童が九名なので、全校で給食を食べています。同じグループの一年生の子が、昔のわたしと同じようにこまった顔をしていました。きっと食べ方が分からないのだろうなぁと気づきました。でも、わたしは前の日から楽しみにしていたので、自分が食べるのにむ中でした。それで、一年生に食べ方を教えるのをすっかりわすれていると、先生が自分のけいはんをお手本にして食べ方を教えていました。食べ始めた一年生は、大きな口を開けて食べていました。ふだん食べるのがおそい子たちが、はしをおくこともせずばくばくけいはんを食べていたのです。きっとわたしと同じように、今日けいはんを好きになったんじゃないかと思いながら一年生を見つめました。